

〔利根川圖志〕運輸

夫舟楫の利は、以て不通を濟する物なれば、天下の利器これより便なるは無し、これ河海の大に人に益ある故なり、利根川に在ては、專航船タカセブネを用う、略註 米五百六、百俵〇每俵四斗二升を積む者常なり、舟子四人を以てす、その大なる者は、八九百俵を積む、舟子六人を以てす、百俵積以下をパウテウ略註といふ、急事の備なり、舟子一人を以てす、

〔和漢船用集舟名數海船〕ヘサイ。字未考、ヘサ濁音也、つねの荷舟也、これを今ヘサイつくりといふ、

〔和漢船用集舟名數海船〕ドソブ。字濁音に讀、小船也、百三十石積、百四五十石積の船也、攝州にて呼所、其故を考らず、中國路に買積をするの商人船也、

〔和漢船用集河海江湖獵船〕コタイキ。字未考、コタ濁音也、武州にて呼所、磯場の類、漁船也、表高くしてふたて板の上に貫木を入、中に魚を取いる、なり、舟覆ても魚の出ざる様のためなり、

〔塵塚談上〕我等武州金澤に、しばらく住居せし事あり、略父榊原理榮、垂死のよし、安永七年戊戌四月二日、江戸出の狀、七日に到來す、不得止事急に支度し、九日朝室の木村船場へ行の處、五大力船出拂ひ、小船一艘、四時過にも出船のよしに付、しばらく待居、略下

〔諸造船式圖〕五大力船所ニヨリ鱒魚舟、上口凡長三丈一尺二寸、横八尺九寸、ヨリ一丈六尺七寸、尺位、

武藏伊豆相模安房上總邊海附ニ有之、

五大力船櫓附、所ニヨリ小廻トモ云、浪花街迺噂、四船生洲といへること、此地坂〇大の名物にして、略圖の如き舟を水中につなぎ、船

中を二疊三疊位ヅ、幾つとなく仕切て客をむかふる也、大なるに至ては、四方へ幕をはる、料理